



・バジルの育て方

- Q. バジルは花が咲くと枯れるそうですが、花を咲かせないで長く育てるにはどうすればよいでしょうか？
- A. 花穂が見えたら、花穂に3～4枚葉をつけて摘み取ると、脇芽が伸びて秋に2度目の収穫ができます。

<ポイント>

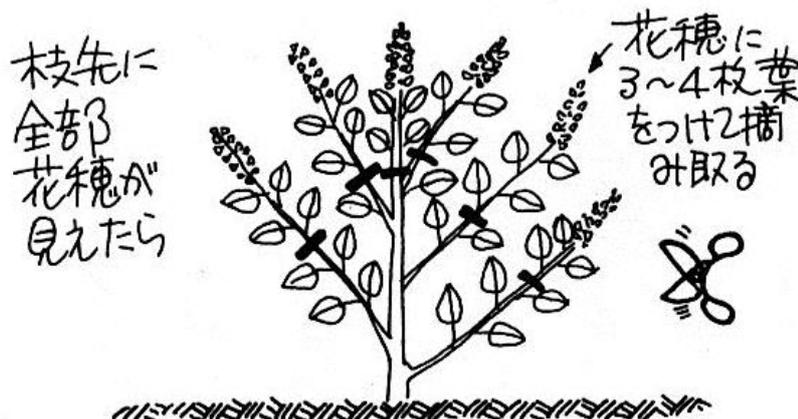
日長には関係なく、発芽後60～70日後に花穂が現れます。

1 育て方

- 1) 種まき…4月下旬から8月上旬まで、いつでもまけます。
- 2) 容器と培養土…8～10号鉢に2～3株、プランターに3～4株植えます。培養土は赤玉土(3)に腐葉土(2)、小粒パーライト(1)の混合。
- 3) 元肥と追肥…元肥は培養土10ℓに苦土石灰10g、化成肥料20g。追肥は半月に1回、1株当たり化成肥料を2g。500倍液肥ならば1週間に1回水やり代わりに施します。
- 4) 水やり…過湿を嫌います。特に、苗の頃の過湿は立枯病を招きやすい。
- 5) 摘心…枝先に花穂が見えるまでに、枝先をマメに摘み取り、液肥を施して脇芽を発生させます。この脇芽も30～40日後には花穂をつけるので、同様に早めに摘心します。
- 6) 収穫…開花前の蕾の頃がもっとも香りがよい。葉を3～4枚つけて摘み取り陰干しして保存します。

2 使い方

花穂も陰干しして乾燥させるとスパイスに使えますが、生でサラダなどに使うには葉だけにします。できるだけ、花が見えるまでに枝先を摘み取って収穫します。トマトの匂いとよく合い、トマトサラダ、スパゲッティミートソースなどに生葉や乾燥葉を刻んでふりかけて食べます。





・鉢植えサツキの手入れ

Q. サツキの花が咲き終わりました。これからの手入れは？

A. 整枝・剪定、植え替え、病害虫の防除が主な仕事です。

<ポイント>

7～8月には花芽ができますから、これらの作業はできるだけ早めに行います。

1. 花後の整枝と剪定

花が終わって新芽が2cmくらいに伸びた時に枝の整理や剪定をします。小枝の先端には細枝がたくさん集まっていますから、新芽を2～3本に制限しながら中心の実を結んだ莨を取り除きます。株の中から特に強く伸びている枝がありましたら、樹形を乱さない程度に短く切り詰めます。残した枝が開き過ぎたり、垂れすぎたりするときは、形がよくなるように紐で誘引します。

2. 鉢替え

花が終わったらすぐに鉢から抜いて、伸びすぎた根を切り、丈夫な棒で周囲の土を3分の1から2分の1ほど落として、新しい土に植え替えます。培養土は若木の場合は、鹿沼土（2）、田土（2）、腐葉土（4）、川砂（1）の割合、成木の場合は鹿沼土（3）、赤土（2）、腐葉土（2）、川砂（1）の割合に混合したものを使います。植え終わったら、1週間くらいは強い風に当てないようにし、以後は肥料を施して十分に当てます。油粕の固形肥料を鉢土の上に2～3個置か、1000倍の液肥を1週に1回与えます。固形肥料は1か月たったら、別の位置に置きます。

【害虫の防除】

高温乾燥期にはツツジノグンバイムシが発生しますから、浸透移行性の殺虫剤（オルトラン粒剤など）を、株の根元にまいておきます。

